

情報学教育フォーラム

Information Studies Education Forum

ニューズレター

ISEF-Newsletter

発行日 2018年10月12日

第5号 (通算14号)

運営 情報学教育研究会 (SIG_ISE)

はじめに

情報学教育フォーラムは初回を2015年5月31日に早稲田大学で開催しました。初回のテーマは「初等中等教育に一貫した情報学教育の充実に向けて」とし、次の8つの課題を検討事項として、これらを順次取り上げて情報学教育フォーラムを開催することを宣言しました。

- ① 日本独自の先進的なK-12カリキュラム
- ② 高校の教科「情報」と大学教育 (特に教養教育) の整合性
- ③ 情報社会のモラルと安全
- ④ 初等教育段階にけるプログラミング教育
- ⑤ 新しい時代に対応した資質・能力
- ⑥ 学校におけるICT活用
- ⑦ 親学問としての「情報学」と学校教育
- ⑧ その他 (「文理融合の情報学」の教育に関する諸事項)

皆様のご協力をおもちまして、関東・関西地区でこれまで5回、いずれも多くの方々にご参加いただき、開催してきました。

第2回情報学教育フォーラム

日時 2015年10月18日 日曜日
 テーマ 情報学教育における高大接続と連携
 会場 早稲田大学

第3回情報学教育フォーラム

日時 2016年5月29日 日曜日
 テーマ 情報学教育の第2ステージ
 会場 大阪学院大学

第4回情報学教育フォーラム

日時 2017年5月28日 日曜日
 テーマ 次世代を視野に入れたinnovativeな情報学教育
 会場 滋賀大学教育学部

今号は、2018年5月27日に開催しました、第5回情報学教育フォーラムについて特集しております。これまでの経緯につきましては、ISEFニューズレターおよび情報学教育論考のバックナンバーをご参照ください。

情報モラル教育のあり方

高島 惇

法律事務所アルシエン 弁護士
 (情報学教育研究会 理事)

情報科目は、平成15年より開始され、その後科目名の変更を経て、高校の次期学習指導要領において「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」として構成される予定である。そして、必修科目となる「情報Ⅰ」では、プログラミングやデータ利用の学習に加えて、情報社会の問題解決に関する学習が挙げられており、かかる学習の前提として、中学校までに経験してきた問題解決の手法や情報モラルを活用することが求められる。

ここで言われている「情報モラル」について、文部科学省は「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度」と定義づけており、法律面や道徳面における問題、更には健康的観点からの悪影響を学習することが求められている。とりわけ、法的観点については、情報化社会において無関心で生きることは不可能であって、取り返しのつかない事態を回避できるよう、少なくとも身近な生活に関する知識を抑える必要がある。例えば、LINEやInstagram、TwitterといったSNSの利用における法的トラブルは、中学生や高校生において頻出しており、名誉毀損や侮辱といった代表的なものから、肖像権侵害や著作権侵害といった必ずしも自覚せずに行われる権利侵害も散見される。このような

権利侵害については、実名での投稿はもちろん、たとえ匿名であっても、プロバイダ責任制限法に基づく発信者情報開示請求を通じて住所や氏名を特定することは可能であって、一昔前と異なり、海外に本社を置くプロバイダであっても開示請求がほぼ支障なく認められている。

そして、本人が特定されれば、権利侵害につき不法行為責任を負わなければならない。ケース次第では100万円を超える損害を賠償しなければならない。また、民事にとどまらず、14歳以上であれば刑事事件化する危険を考慮しなければならないし、高校や私立の中学校であれば退学処分などを懸念する必要もある。このような法的責任は、今後の長い人生へ重大な悪影響を及ぼし得るのであって、謝罪すれば許されるものではない。より強く言えば、未成年者であっても、法律は決して許してくれないのである。

このような法的責任が生じるのは、被害者はもちろん加害者にとっても非常に不幸なことである。だからこそ、かかる不幸を少しでも回避すべく、せめて身近な生活における法的トラブルの存在を生徒へ教育し理解させる作業は必要不可欠である。情報モラル教育は、道徳面や健康面といった多角的な視点も踏まえつつ、日常生活の中でおのずと実感できるような形で生徒へ伝えるのが重要なのだろう。

目次

情報モラル教育のあり方	高島 惇	1
第5回情報学教育フォーラム・プログラム	編集部	1
第5回情報学教育フォーラムの速報	横山成彦	2
感性に響く情報メディア教育 ～ICTの超活用～	松原伸一	3
情報学教育研究の新しい展開: WebサイトとTwitterとの有機的な連携	編集部	4

第5回情報学教育フォーラム・プログラム

日時: 2018年5月27日(日) 13:00-17:00

場所: 大阪学院大学 2号館 02-B1-03 教室
 (大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号)

テーマ: 情報学教育の最新トピックス: 人間性への回帰
 ～情報メディア教育の未来形～

運営: 情報学教育研究会 (SIG_ISE)

プログラム

司会 齋藤 実 (情報学教育研究会 理事)

13:00～13:20 開会

挨拶 松原伸一 (情報学教育フォーラム 議長)

13:20～13:50 講演

講師 高島 惇
 (法律事務所アルシエン 弁護士)
 (情報学教育研究会 理事)

演題 情報メディア教育における法律面でのポイント

14:15～16:15 ラウンドテーブル

コーディネータ 高島 惇 (S1担当)
 (法律事務所アルシエン 弁護士)
 (情報学教育研究会 理事)

主題 法と情報メディア

コーディネータ 横山成彦 (S2担当)
 (大阪学院大学高等学校 教諭)
 (情報学教育研究会 事務局長)

主題 ICTの超活用

16:30～16:50 報告とお願い

担当 松原伸一
 (滋賀大学大学院教育学研究科 教授)
 (情報学教育研究会 代表)

16:50～17:00 閉会

挨拶 望月翔平
 (兵庫県立西宮香風高等学校 教諭)
 (情報学教育研究会 理事)

第5回情報学教育フォーラムの速報

横山成彦 情報学教育研究会事務局長, 大阪学院大学高等学校教諭

第5回情報学教育フォーラムは、2018年5月27日(日)13時00分より、大阪学院大学(大阪府吹田市)2号館地下1階02-B1-03教室で開催した。



大阪学院大学 2号館

今回は、「情報学教育の新ルネサンス：人間性への回帰 ～情報メディア教育の未来形～」をテーマに実施した。

情報学教育フォーラムも2015年に第1回目となるフォーラムを早稲田大学西早稲田キャンパスで開催してから今回で5回目の節目を迎えるにあたり、「つねに新しい内容、新しい手法で」という、本フォーラム開催にあたっての趣旨から、従前のセミナー形式の会場から、ラウンドテーブル形式の会場を採用し、本フォーラムが初回以来、大切にしてきた、ご参加いただくおひとりおひとりに自分の思いや考えを何らかの形でアウトプットしていただくというスタイルを最大限に活かすことのできるようにした。

また、会場となった大阪学院大学の併設校である大阪学院大学高等学校から、パソコン部の生徒が会場準備から運営、また、本フォーラムにおいても参加した。



パソコン部の生徒

本稿においては、第5回情報学教育フォーラムの開催速報として、写真を中心として概要を報告する。

前半の「講演」の部においては、情報学教育研究会の理事であり、法律事務所アルシエン所属の弁護士である高島惇氏を講師に迎え、「情報メディア教育における法律面でのポイント」の演題で講演いただいた。



高島惇 弁護士

続いて後半の「ラウンドテーブル」は2部構成で行い、その第1部を高島惇氏がコーディネータを務め、「法と情報メディア」をテーマに参加者とともに議論を行った。



円卓会議

「ラウンドテーブル」の第2部においては情報学教育研究会の事務局長である横山成彦(大阪学院大学高等学校教諭)がコーディネータを務め、「ICTの超活用」をテーマに、大阪学院大学高等学校パソコン部の生徒によるICTの超活用の提案をもとに議論を重ねた。



高校生の発表に耳を傾ける参加者ら

最後に、情報学教育フォーラム議長であり、情報学教育研究会代表の松原伸一氏(滋賀大学大学院教育学研究科教授)によりまとめと報告、さらに協力のお願いがなされ、閉会した。



松原伸一 教授

また、第5回情報学教育フォーラムに先立ち、同日午前、大阪学院大学2号館02-B1-04教室において、特別セッション:ワークショップを開催している。今回のテーマは「Twitterのログインから情報安全のための基礎知識」で講師を望月翔平氏(兵庫県立西宮香風高等学校教諭)が務めた。



望月翔平 教諭

なお、2018年中に発行予定の「情報学教育論考」第5号においては、第5回情報学教育フォーラムを詳報する。

松原伸一 情報学教育研究会代表、滋賀大学大学院教育学研究科教授

1. はじめに

情報学教育フォーラムは、2015年に第1回が開催され、その後、年に1・2回の開催を重ねて、2018年5月27日（日）に第5回となりました。皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

第5回のフォーラムは、情報学教育ニュースサイト等でもご連絡の通り、「**抜本的・根本的・根源的に新しい**」をテーマに、情報学教育研究会におきまして各種活動を進めておりますが、この度、そのエンジンといえる特別・企画ワーキングなど各種のワーキングが活動を活性化いたしました。

そこで、今までのフォーラムでの成果を継承しつつ、新しい活動への幕開けとするために、**ラウンドテーブル**といたしました。そのイメージとしましては、円卓を囲み、可能な限り少人数で、意見交換を行い、新しい方向性を検討・議論する会議（円卓会議）を行いたいと考えたからです。

第5回情報学教育フォーラムは、皆様のご理解とご協力を頂戴し予定通り開催し、一定の成果を収めることができました。こころよりお礼を申し上げます。

2. 情報学教育研究会:新しい展開へ

情報学教育研究会は、このフォーラムを運営・主催しています。また、本研究会の前身である「情報科教育法研究会」は、2003年度から年次進行で実施された教科「情報」の教育を理論的かつ実践的な両面にわたり、研究を行う団体として2002年に発足し、教科「情報」の実習事例などの著書・冊子等を発行して参りました。

その後、2009年11月11日に情報学教育研究会に名称変更を行い、高等学校だけでなく、初等中等教育を対象とした情報学教育を情報学教育のK-12カリキュラムとして定着させるとともに、昨今では、高等教育、生涯教育までも視野に入れて拡張・深化させ、K-16、K-18、K-allという標語にて進めて参りました⁽¹⁾。

従いまして、今年の2018年という年は、情報学教育研究会から見れば**9年**、前身の研究会から見れば**16年**の歴史となります。このような経緯から2019年は、**10周年記念**（通算**17周年記念**）で、節目となる重要な年になります。

そこで、近年では、新しい視点を本格的に取り入れることとし、

1 : 感性に響く → Info-Arts

2 : 理性に届く → Info-Ethics

3 : 知性に繋ぐ → Info-Science

をキー概念とする研究活動を活性化して参りました。

そこで今年度は「**更なる新しさに挑戦**」というキーワードを掲げて進めております。例えば、

①Twitterの公式アカウント (@sigise) を開設するとともに、

②情報学教育ニュースサイト:ISE_News (<http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/news/>) を新たに構築して、今までの関係サイト（情報学教育ポータルサイトなど）と連携して運営しています。

3. 情報学教育フォーラム:新しい次元へ

以上の経緯から、この度の情報学教育フォーラムは、

(1) 講演の部では、

2 : 理性に届く → Info-Ethics

に関連して、「情報メディアと倫理」という視点から、この分野の専門職である高島 惇 弁護士（本研究会理事）に講演いただきまして、学校における法とメディアについての知識の充実を図ることになりました。

(2) また、その後続くものとしましては、今までのフォーラムでは初めての試みとなる「ラウンドテーブル」とさせていただきます。ここでは、幾つかの話題を提供し、「情報学・次世代教育」の方向性を確固たるものにすることが狙いでした。

初等中等教育だけでなく、高等教育をも含めた「情報学教育」に関心をお持ちの皆様の、さらなるご理解とご協力を賜れば幸いです。

4. 感性に響く情報メディア:ICTの超活用

このテーマ、すなわち

1 : 感性に響く → Info-Arts

に関しては、既にWebサイト「感性に響く情報メディア教育の新しい展開」

(<http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/imse/>)にて一部を公開しています。

その概要は、1つの共通ステージ (G) と4つの特別なステージ (A~D) を提案しています。

これらを視野に入れた情報メディアの活用をICTの**超活用**と呼んでいます。

・Stage_G

用語解説・概念整理

・Stage_A

音楽・音響・コンピュータミュージック

・Stage_B

画像・映像・アニメーション

・Stage_C

演劇・映画・ダンスパフォーマンス

・Stage_D

芸術・技術・メディアアート

なお、具体的な項目については、Webサイトを参照されたい。

4. 教材開発の現状(お知らせ)

「井伊直弼（彦根藩主、大老）と江戸幕府」をテーマに、ICTの超活用を視野に入れて、映像・画像及び関係資料の取材・収集のため、桜田門を訪れるとともに関係する史跡について調査を行った。

図1は、桜田門（正確には外桜田門）の外観を示す。また、桜田門から先を望めば警視庁（図2）は目前にあります。参考までに記しました。



図1. 旧江戸城 外桜田門



図2. 警視庁

参考文献

(1)松原伸一:情報学・次世代教育の新しい展開～情報学教育ポリシーの拡張と深化～,情報学教育研究,Vol.13, pp.17-24.

6. おわりに

今後、「情報学教育論考」第5号(通算14号)の準備中である。関心をお持ちの方は、併せて参照願えれば幸いである。

情報学教育研究の新しい展開: WebサイトとTwitterとの有機的な連携

編集部 (情報学教育研究会, 情報学教育フォーラム, ISEFニューズレター)

1. はじめに

皆様のご協力により第5回情報学教育フォーラムは終了しました。この度のフォーラムでは、情報学教育研究会が進める活動、これを象徴的に表現すれば、

抜本的・根本的・根源的に新しい
であり、その具体的な内容は、
人間性への回帰・新ルネサンス
として、

#1.感性に響く, #2.理性に届く, #3.知性に繋ぐ
という3つのPhaseにて展開しています⁽¹⁾。

ここでは、これらの活動について、今後の予定も含めて、簡潔にご紹介いたします。

2. AGAA(All Generations Arts Activities)の提案

AGAA(All Generations Arts Activities)とは、全ての世代に有意義な広義の芸術(芸術活動)を支える環境(情報システム, 社会システム)のことで、Fine Arts, Industrial Arts, Liberal Arts, Media Arts など多様なアーツについて、全ての世代に有意義なリテラシーのステージとして、情報メディアの未来形のDNAを提案します。素敵なアーツ(絵, アニメ, 詩, 曲など)をベースに活動できるステージとして、「デオ騎士リボ拡散」という名称でTwitterアカウントを開設し、アート活動の新しいDNAとなることを標榜しています。

また、AGAAのステージは、

- 1次元分野: 音楽・楽曲, DTM
- 2次元分野: イラスト, アニメ絵
- 3次元分野: 身体表現, ダンス
- 4次元分野: メディアアート, インターメディア

と考えることができ、4つのステージでの展開を基礎といたします。

なお、アーツもいろいろですが、新企

画のAGAAにおける視野は、

- ・ Mathematical Arts
- ・ Literary Arts
- ・ Musical Arts
- ・ Fine Arts
- ・ Performance Arts
- ・ Industrial Arts
- ・ Liberal Arts
- ・ Media Arts

などの多様なアーツになります。

3. ワーキングの始動について(お知らせ)

用語解説・概念整理ワーキングが本格的に始動いたします。公式アカウントは、@iseternとなります。

このワーキングでは、用語の投票, 集計, 解説(執筆, 編集), 公表などの各ステップについて、関心をお持ちの皆様と連携・協力しながら、情報を共有してまいります。そのために、WebサイトやTwitterなどのSNSを有効に活用して参ります。ぜひこの機会にフォローをしていただき、WGの活動に参加いただければ幸いです。

4. WebサイトとTwitterによる有機的な連携

情報学教育研究会および情報学教育フォーラムでは、従来よりWebサイトのご案内を充実して参りましたが、全体の内容が多くなり複雑化したため、情報学教育ポータルサイトを構築し、その多くの最新情報を一括して表示する専用のサイトとして情報学ニュースサイトを新たに設けました。

そして、この度は、下記の3つのTwitter公式アカウントを開設するとともに、新たにAGAA支援環境の専用サイトの構築に着手いたしました。それぞれを簡条書きで示せば下記の通りとなります。

【新しいWebサイトの構築に着手】

W24: AGAA支援環境

【Twitterの公式アカウント】

T21: 情報学教育研究会(公式)

@sigise

T22: DNA_デオ騎士リボ拡散:AGAA(公式)

@DKRK_1

T23: 情報学教育_用語解説(公式)

@isetern

【既設のWebサイト】

各サイトへW10からお入りください。

W10: 情報学教育ポータルサイト

<http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/iseps/>

W11: メディア情報学研究室

(松原研究室 MLab)

W20: 情報学教育ニュースサイト

W21: 情報学教育研究会

W22: 教育情報化推進研究会

W23: 情報学教育フォーラム

W30: 情報学・次世代教育サイト

W31: #1.感性に響く情報メディア教育

【開設予定のWebサイト】

W32: #2.理性に届く情報メディア教育

W33: #3.知性に繋ぐ情報メディア教育

5. おわりに

研究活動は、Webサイト、及び、Twitterを有効に連携させて、ICTの超活用を進めて参ります。ご理解とご協力を賜れば幸いです。

参考文献

- (1)松原伸一: 情報学・次世代教育の新しい展開～情報学教育ポリシーの拡張と深化, 情報学教育研究(通算13号), pp.17-24, 2018.

※この研究活動は、JSPS科研費(代表者:松原伸一, 課題番号:16K04760)の助成のほか、滋賀大学の各種の支援を受けた。

情報学教育フォーラム(ISEF) ニューズレター 第5号 (ISEF, EEP 通算14号)

ISEF (Information Studies Education Forum) - Newsletter

発行日 2018年10月12日

発行者 情報学教育フォーラム

運営 情報学教育研究会 (SIG_ISE)

情報学教育研究会事務局

住所 〒520-0862 大津市平津2-5-1

滋賀大学大学院教育学研究科松原研究室

<http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/isef/>

http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/sig_ise/

sigisecsec@gmail.com

<http://www.mlab.sue.shiga-u.ac.jp/>